たので正直受賞は嬉しい驚きでした。今後は特に男女ともにみられる腺癌増加の原因について分析疫学による検討も加えてさらに研究をすすめることができたらと考えています。

国際活動③—IARC/韓国国立がんセンター共催　地域がん登録国際コースに参加して

松尾　恵太郎

愛知県がんセンター研究所　疫学・予防部

昨年 8 月 22-27 日の 6 日間、IARC/韓国国立がんセンター（KNCC）共催で地域がん登録国際コースが、KNCC で開催された。アジア諸国を中心に計 14 ヶ国から 30 名弱が受講者した。日本からは、国立がんセンター松田智大、丸亀知美両先生が講師として、山形県立生活習慣病センター柴田亜希子先生ならびに筆者が受講者として参加した。(写真)

コースは、講義形式の部分と小グループによる実習形式に分かれていた。講義は、がん登録総論、ICD-O3、ケースファインディング、登録項目概論、多重がん定義、staging、CanReg4 概説、quality control、罹患報告、個人情報保護・倫理・法的側面等、地域がん登録に必要なトピックが網羅されていた。実習は選択形式で、CanReg 4 の使いかた、情報の抜粋の仕方に関する実習は、松田、丸亀、柴田先生が参加された。小グループによる話し合い形式による実習は有効であったそうである。筆者は、がん登録情報の解析法とその応用に関するグループを選択したが、韓国の講師陣によるデータ解析の実例を伴う部分が参考になった。

コースの途中にアジアにおけるがん登録ネットワークに関するサテライトミーティングが挟まれたが、温度差はあるものの IARC/IACR 以外にアジアとしてのがん登録のつながりを期待する向きがあるのを感じた。

本年は中国で開催されるので、参加を検討されてはいかがだろうか。

第 17 回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会を終えて

関根　一郎

長崎大学大学院　医歯薬学総合研究科　原研病理

平成 20 年 9 月 11 日（木）から 12 日（金）にかけて、長崎大学医学部キャンパス良順会館と記念講堂において、第 17 回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会を開催致しました。全国から 272 名にご参加いただき、おかげさまで盛会のうちに無事終了したことをご報告申し上げます。

平成 20 年は昭和 33 年に長崎市医師会腫瘍統計事業が開始されてから、ちょうど 50 周年にあたります。この記念すべき年に総会研究会を開催することができたことは、とても名誉なことでした。放射線影響研究所の陶山疫学部長に副会長をお願いし、私どもの原研病理と放影研、そして、長崎県福祉保健部の面々が力を合わせ、開催にこぎつけた次第です。プログラム作成には国立がんセンターの味木先生にも一役かって頂きました。一昨年の「がん対策基本法」成立を踏まえ、「がん対策基本法施行後の現状と課題」というテーマで、特別講演 2 題、会長講演、2 つのシンポジウムを設定いたしました。前日 11 日午後のがん登録担当者集会では初の試みとして、実務担当者部会と別に行政担当者部会を設けました。

特別講演は、我が国の地域がん登録の牽引役である国立がんセンター味木和喜子先生に「わが国の地域がん登録の現状と展望について」というタイトルでお話していただきました。さらに、長崎県南保健所の土居浩先生に、「長崎における成人 T 細胞性白血病とがん登録」というタイトルでご講演いただきました。土居先生は、長年取り組んでこられた長崎県における HTLV-1 母児感染遮断について紹介されました。

会長講演は、「長崎腫瘍組織登録委員会について-地域がん登録そして原爆研究への利用-」と題し、長崎の組織登録（個人的には病理登録という名称が相応

しいと思っています）事業ががん登録にとっていかに重要な役割を果たしてきたかを原爆研究にからめお話させていただきました。

シンポジウムⅠでは、「がん登録資料の活用･成果」というテーマで4人の先生方にご講演いただきました。「がん患者の受療動態」について、大阪府立成人病センターの津熊秀明先生、「がん検診の精度管理」について、宮城県立がんセンター研究所の西野善一先生、「長崎腫瘍組織登録委員会資料を用いた被爆者腫瘍の病理疫学研究成果」について、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の中島正洋先生、「がん登録を活用した長崎県のがん対策」について長崎県福祉保健部の藤田利枝先生から、夫々ご講演いただきました。

シンポジウムⅡでは、九州・沖縄のがん登録の現状を各県のがん対策推進基本計画をふまえて紹介していただきました。沖縄県衛生環境研究所の賀数保明、熊本県健康福祉部の中村貴美枝先生、放射線影響研究所長崎研究所の陶山昭彦先生がそれぞれの県の状況を説明されましたが、佐賀県の発表が無かったのが残念でした。

閉会前にポスター賞が発表されました。今回は特にテーマを決めずにポスターを募ったところ､27の申し込みがありました。この中から、山形県の柴田亜希子先生が学術賞を、群馬県の松永弘子先生が原研病理賞を、山口県の内田佐知子先生がヴィジュアル賞（長崎県がん登録室賞）を、そして全員が審査員となって選んだ栄えある MIP 賞は広島県の伊藤桂先生が夫々獲得されました。

前日の午後行われたがん登録担当者集会は、2部構成とし、第1部は「精度の高いがん登録を目指す」と題し、福井社会保険病院の藤田学先生から「福井県における登録精度向上への試み」を、山梨県福祉保健部の山下清子先生から「山梨県における標準登録様式を導入したがん登録の立ち上げ」について夫々紹介していただきました。

第2部は実務担当者部会と行政担当者部会に分かれ、前者は「血液疾患のコーディング」について、後者は「がん対策とがん登録」について研修会がもたれました。実務担当者部会では、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の宮﨑泰司先生が臨床家の立場から「造血器腫瘍の臨床と WHO 分類」について、久留米大学医学部の新野大介先生が病理医の立場から「WHO 分類に基づいた悪性リンパ腫の分類」について、最後に、愛知県がんセンター研究所の松尾恵太郎先生が、血液内科医としてのご経験と現在疫学者としてがん登録に携わっておられる経験から「本当は恐くない血液疾患のコーディング」と題し、夫々実務者に解りやすく説明されました。

長崎県福祉保健部のきもいりで実現した行政担当者部会では、厚生労働省 健康局総務課がん対策推進室の片岡穣先生から「我が国のがん対策の動向」について、大阪府健康福祉部の田所昌也先生から「行政における地域がん登録資料の活用」について夫々お話いただきました。初の試みでしたが、60名以上の参加があり、大いに盛り上がりました。

昨年同様、がん登録担当者集会終了後に夕食を食べながらの情報交換会がウェルシティ長崎で行われましたが、123名という多くの方にご参加いただき、主催者としては大きな喜びでした。

がん登録担当者集会には200名近い参加者が､また、総会には186名もの方々が参加してくださり、活発な質疑応答で会を盛り上げていただきました。ご講演いただいた講師の先生、座長の労をおとり頂いた先生方は勿論のこと、遠路はるばるお越しいただき会を盛り上げてくださった参加者の皆様に、改めて御礼申し上げます。

地域がん登録全国協議会総会研究会の準備と平行する形で、長崎市医師会腫瘍統計事業 50 周年記念誌が作成され、総会研究会抄録集と一緒に参加者全員に配布することができました。長崎の歴史の一端を見ていただけたと思います。長崎市医師会の長年の功績に対し、総会研究会の中で長崎県から長崎市医師会に感謝状が贈呈されたことも、併せてご報告いたします。

一昨年の「がん対策基本法」成立後、がん登録を取り巻く環境も大きく変化してきているようです。今回の総会研究会が地域がん登録事業の発展に少しでもお役に立つことができたならば、会長としてこの上ない幸せです。行き届かない面も多々あったかと存じますが、皆様、ありがとうございました。